

3

高島 北海 《日本垂伯槍ヶ岳図》



こちらは北海さんの代表作のひとつ《日本垂伯槍ヶ岳図》ですね。左右の屏風に描かれていて、横幅約6mと迫力がありますね。



そうであろう。わたしは登山を本格的にしていたので、リアルな山脈の姿をとらえることができたのだ。



地質学の知識もあったから、山の構造とかも理解して描いていたんですね。だから説得力のある山が描けたんですね。



もちろん地質学を取り入れたように、新しい描き方はしたが、やっていることは江戸時代の竹田さんと変わらないのだよ。



そうなんですか。そういえば、北海さんの時代には、横山大観さんたちが、西洋の要素をとりいれた日本画を描いてましたよね。輪郭線をはっきり描かず、面で描いて、大気や光を表そうとしたり……。そういう流行りはとりいれなかったんですか？



いや。わたしはあくまで伝統的なやり方で、実際に目にした風景を理想化して、壮大な景観を描こうとしたのだよ。田能村直入さんや松林桂月くんもわたしと同じ考えであった。



大観さんたちも、北海さんも、それぞれのやり方で、自分の日本画を追究したんですね。



高島北海《日本垂伯槍ヶ岳図》明治44年（1911） 下関市立美術館